

八木弘敬さん

技師長
榊原 勝さん

関原恵利子さん

迅速・正確な診断を支えるプロフェッショナル集団 臨床検査部のご紹介

病院で診察や診断を行うために、検査は非常に重要な役割を果たしています。
名古屋記念病院では32年前の開院時から他の病院に先がけて
「診察前30分検査」を実施し、迅速で正確な診断・治療に役立ててきました。
一口に検査といってもその内容は多岐にわたっています。
今回は名古屋記念病院における臨床検査部の活躍ぶりを
スタッフのみなさんのお話をもとにご紹介します。

— 名古屋記念病院臨床検査部の特徴は？

榊原技師長 1985年、名古屋記念病院が開院した時から当時の木村忠男技師長（現 臨床検査部顧問兼院長補佐）によって「診察前30分検査」を実施してきました。これは検査結果を30分以内に報告し、患者さんの検査当日の検査結果を元に、医師が正確に診療・治療・投薬の決定に役立てるといったものです。当時は結果が出るまでに3日から一週間ほど待っていただくのが普通でしたから、患者さんにとっては何度も病院へ足を運ぶことがなく、とても画期的なことでした。また、検査結果に応じてすぐに点滴が始まったり、入院が決まったりと患者さんとの信頼関係がどんどん増していきました。

最近では多くの病院でも診察前検査を行うようになってきましたが、昼夜を問わず行える検査項目数においては他の施設より多く報告しています。

— 30分検査で苦勞された点は？

榊原技師長 新しいことにチャレンジするのは苦勞の連続でした。30分検査は日本で2番目で、検査機器・試薬の改善や改良はもちろんですが、当時はコンピューターシステムを利用して迅速に報告するシステムが十分でなく、本当に大変でしたがその分やり甲斐もありました。

— 検査技師の仕事の内容は？

榊原技師長 血液検査や生理検査、細菌検査、免疫血清、一般検査、輸血検査、病

理検査など多岐にわたっています。開院2年目の1987年には病理検査を開始、2002年からは細菌検査も関連病院から院内へ移行し、休日にも検査を実施できる体制を整えました。

八木さん 臨床検査の業務には血液や尿の検体検査の他に、心電図・肺機能・超音波などの生理検査があります。私はこの生理検査を担当しています。生理検査は患者さんが相手であり、良いデータを出すためには技師の技量のほかに、患者さんの協力も必要になり、良好なコミュニケーションをとることを心がけています。また当院では糖尿病患者さんの教育入院のなかで、血糖測定器の説明や、糖尿病における検査の説明も行っています。

関原さん チーム医療への関わりも検査技師の大きな役割の一つです。私は細菌検査室で仕事をしています。感染対策チームの一員として医師・看護師・薬剤師とともに院内ラウンドをしたり、耐性菌の報告などを行っています。

— 検査結果を患者さんにお渡ししていますね。

榊原技師長 1999年から始めました。



名古屋記念病院の臨床検査部のスタッフはどの検査でもできるように教育を受けています。忙しい検査を互いにフォローし、患者さんと医師に素早く検査結果をお知らせします。

当時は他施設でもあまり行われていませんでした。その後厚生省から、患者さんに検査結果を当日中に説明した上で文書を提供し、結果に基づく診療が行われた場合に外来迅速検体検査加算などの制度が始まりました。今では多くの病院で行っています。最初のうちは患者さんも検査項目の意味がよくわからないため「わかりやすい検査データの見方」という案内を作っていっしょにお渡ししていました。

— 検査部の体制は？

榊原技師長 現在は27名24時間365日体制で行っています。当院の検査部の特徴としてスタッフ全員が全ての業務に携わることができるように教育訓練を行っています。

八木さん 一般的な病院だと生理検査と血液検査がはっきりと別れていて相互に応援しあうようなことはありませんが、当院では例えば心電図が忙しくなった時に血液検査の仕事をしていた技師がすぐ

に応援できる体制をとっています。これは当院の特徴だと思います。

— 地域連携・病診連携への役割は？

榊原技師長 近隣の開業医の先生からの心エコーや脳波検査の依頼を受け、検体検査は夜間や休日にも受託して実施しています。

関原さん 愛知県下の病院の感染対策チームがお互いの病院を訪問しあって評価しあう病診連携なども行われています。感染について意識を高め、よりよい対策ができるような活動に参加したいと考えています。

八木さん 当院では大腿骨頸部骨折や脳卒中の地域連携パスを行っています。これにより回復期リハビリテーション病棟を持つ病院への早期転院が実現しています。当院にはクリティカルパス委員会があり、地域連携パスを含めたパスの作成、検討をしており臨床検査部も積極的に活

動しています。

— 臨床検査技師の育成について。

榊原技師長 毎年必ず各種学会に演題を提出して発表を行っています。また各部門での勉強会の開催や、技師会や医師会の勉強会にも参加して、技師一人ひとりの技術や知識の向上に努めています。また、新人教育には院内独自の認定制度を設けて早期育成に取り組んでいます。

— 臨床検査部としてアピールしたいこと、今後の思いは？

榊原技師長 医師や看護師、薬剤師などを交えたチーム医療を今後もしっかりとやっていきたいと思っています。またオーダーメイド医療やコンパニオン診断、いろいろな遺伝子検査の分野にも参加できる臨床検査部を目指しています。

八木さん 患者さんのデータを一番早く知るのは検査技師です。単にデータを報告するだけでなく、付加価値をつけて早期治療に結びつけられるデータ報告を行うことで、医師だけでなく患者さんからも信頼される検査部を目指したいと思います。

関原さん 小さなお子さまも来られますが、採血や心電図検査など、検査というのは楽しいことではありません。患者さんに優しく寄り添って「名古屋記念病院の検査だったら検査を受けたい」としてもらえるような検査部でありたいと思っています。

榊原技師長 「自分の家族をこの病院で受診や検査をさせたい」と思えるような臨床検査部を目標に、日々努力しています。

